

絹やレーヨンなどの素材は、薄地で光沢のあるデリケートな製品を作ることができますが、生地構造や使用する糸などに起因する問題も抱えています。今回は、着用によって生じる目寄れの事例を紹介いたします。

監修／クリーニング総合研究所

素材特性に注意

衣類の状態

クリーニングに出したら両袖付け根部分に波打ちが生じ、穴があいて返ってきたとの申し出があったもの。

クリーニング前の検品時に変化していることを確認していたが、お客様も了承していると思い、そのままクリーニングを行って返却している。

目寄れ

着用中などに局部的に無理な力加わりやすい袖付け付近などに生じやすく、クリーニングすることでさらに拡大してしまうことがある。

無理な力が加わることで織糸が移動する現象のこと。織糸がずれて生地が波打ったようになつたり、織目が大きく開いて穴があいたように見えることがある。

原因

着用による無理な力が加わることで、織糸が移動する目寄れが生じたもの。

事故が生じやすい素材や部位

- ・絹やレーヨン、減量加工（ポリエステル）の表面を薬品で溶かし、絹のような風合いを持たせたもの（されたポリエステルなどの素材）
- ・サテン地など浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地
- ・着用の際、ゆとり量が少ない場合の上腕部
- ・シヨルダーバッグ等による摩擦作用を受けやすい部分

事故の防止対策

アパレルは、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地などを使用する場合は、滑脱試験で滑脱抵抗力を確認し、必要に応じて取扱い等の注意表示を行うこと。

また、目寄れの発生しやすい素材の製品を企画する場合には、

着用時のゆとり量を考慮する。フィット性のあるものや切替えのあるデザインの場合は、着用により変化しやすい特性があることについて理解を求めめることも必要。

目寄れと滑脱の違い

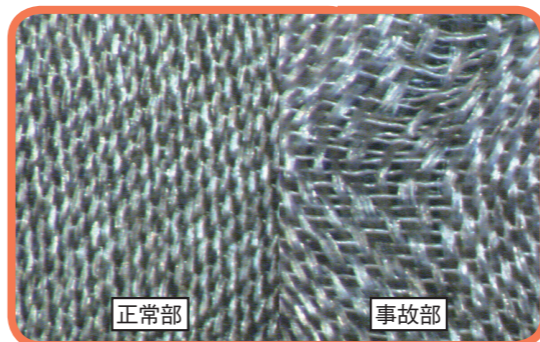
目寄れと同様に、織目が開いたような状態になる事故には「滑脱」がある。

滑脱は、縫い目部分に力が加わることで縫い目が開いたり、縫い代から織糸が引き抜ける現象。目寄れと同様に、浮き糸の多い生地や密度の粗い生地、撚りの少ない糸を使った滑らかな生地などに生じやすいことは共通している。



浮き糸が多いサテン地を使用したワンピース

袖の付け根部分に波打ちが生じている



正常部(左)に対し事故部(右)は織糸がずれている

- 品名…ワンピース
- 素材…100% SILK
- 取扱い表示…なし
(タグはあるが記号の記載なし)
- 処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング3分（ネット使用）、タンブラー乾燥、ハンドアイロン仕上げ